

## 令和元年度第1回高知県農業経営・生産対策等に関する第三者委員会議事概要

- 1 開催日時 令和元年5月30日(木) 13:30~15:30  
開催場所 高知城ホール2階「くすのき1」  
出席者 委員3名(玉里委員長、常光委員、濱口委員)
- 2 議事内容 中山間地域等直接支払制度第4期対策の最終評価について
- 3 議事概要 ※■委員の質問・意見 □事務局の回答  
中山間地域等直接支払制度第4期対策の最終評価について  
■対策期の変わり目に大きく取り組み面積が減少したのは、高知県以外にあったのか。  
□全国でも同様に面積の減少があった。5年間の縛りがあるため対策期の変わり目にあわせて、取り組みをやめることが多い。  
■協定数が減りながらも取り組み面積が戻っているのは広域化が行われたためか。  
□そうです。  
■個人配分が6割、共同活動費が4割というのは全国的にも同じ状況か。  
□個人配分が1/2以上となるのが望ましく、全国的にも同程度ではないか。  
■課題解決に取り組む市町村に重点支援とありますが、どのような事を行っているのか。  
□市町村に出向いて、課題や推進の方向性などを協議している。また、財政的な支援としては推進交付金に県費の継ぎ足しを行い推進の強化を図っている。  
■課題となっている5年間の継続と事務処理について、第5期対策から変更はないのか。  
□5年間の継続については、国も問題意識は持っており、期間を3年間にするとか返還の免除を拡充するなどについて、国で検討していると聞いている。  
■第4期対策移行の際に大きな面積減少があった要因は。  
□高齢化による営農困難や担い手不足が要因。  
■最終評価の選択等は何を基準にしているか。  
□市町村の評価書を参考に選択している。  
■農村景観の保全、集落環境が向上したというのは、地元の市町村では気づかないのではないかと。実は農村景観の保全に寄与している可能性もあると思う。  
■「今後、適切な農業生産活動が継続的に行われるための課題等」について、課題だけでなく対策についても記載した方がよい。  
■農作業の省力化について、高齢化・担い手の不足が深刻化する中、農作業の省力化は必要と思うが、課題として挙げるべきではないか。  
□ご意見いただきました件につきましては、再度検討し最終評価書へ反映する。  
■多面的機能支払は活動組織向けの説明会で事例紹介行っているが、中山間地域等直接支払については、協定同士の意見交換会や、協定者向けの説明会は行う予定はないか。  
□県内5ブロックで協定代表者向けの説明会を予定している。その際に、活用事例についても紹介する予定。  
■新規就農者の確保について、Iターン・Uターンといった具体的な内容を追加できないか。また、Iターン・Uターンの方が活躍している事例などはないか。  
□活躍している事例について把握できていないので、今後の推進のためにも把握していく。内容の追加については検討する。